主な評価結果に対する普及指導計画（活動）への反映状況等

評価項目	主　な　評　価　結　果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の体制 （次のページに続く）	○　新規性、革新性を追求した試験研究機関や企業との連携、普及指導員相互の連携の先進的な在り方をさらに検討すべきである。	○　専門分野ごとに主要品目の課題を整理し、技術を体系化するため、農林水産事務所農業改良普及課、農業総合試験場及び関係機関が、農業技術体系化促進会議の開催や現地での調査研究を行い連携する。 ○　農業総合試験場が主体となり取り組む戦略的プロジェクト研究推進事業の研究コンソーシアム（農業者、民間企業、試験研究機関等）に農林水産事務所農業改良普及課が加わり、新品種・新技術が現場で実装できるように連携する。 ○　農業総合試験場等で開発された新品種・新技術を現場に普及推進するため、農業革新支援専門員が中心となり、生産体制・技術確立支援事業と実用化技術研究会を開催し、試験研究機関、農業者、実需者、農業関係団体、大学、民間企業と連携する。
	○　新規性あるいは革新性の高い普及課題に対して、柔軟な普及指導活動をするための研究や試験をする予算措置が必要である。	○　農業総合試験場が主体で、農林水産事務所農業改良普及課が連携して新品種・新技術の現場への実装に取り組む戦略的プロジェクト研究推進事業の予算措置を行う。 ○　農業革新支援専門員が中心となり、試験研究機関、農業者、実需者、農業関係団体、大学、民間企業と連携して、農業総合試験場等で開発された新品種・新技術の現場への普及推進に取り組む生産体制・技術確立支援事業と実用化技術研究会の開催に必要な予算を措置する。 ○　普及指導員が農業団体や民間企業と連携して、新規性の高い普及課題であるＩＣＴを活用した高度な環境制御に取組、施設園芸の生産性向上を図るあいち型植物工場推進事業の予算を活用する。

評価項目	主　な　評　価　結　果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の体制 （次のページに続く）	○　多くの情報を得るために、愛知県外への視察等をできるだけ多く行えるための時間と予算の確保が望まれる。	○　農業革新支援専門員が中心となり、農業総合試験場等で開発された新品種・新技術を推進するために生産体制・技術確立支援事業の予算を措置し、普及推進に必要な愛知県外視察による情報収集を実施する。
	○　普及指導員の指導活動やスキルアップの時間確保のため、事務負担を軽減することが必要である。	○　社会情勢の変化に対応した普及指導活動を実施するため、普及事業の新たな活動体制の整備について、事務の見直しを含め検討する。
	○　農林水産事務所農業改良普及課内に適正な人員配置がなされていると思われるが、見直す点がないか検討する必要がある。	○　社会情勢の変化に対応した普及指導活動を実施するため、普及事業の新たな活動体制の整備について、適正な人員の配置を含め検討する。
	○　全国を広く見るための研究、研修の機会を増やす必要がある。	○　全国の動向や取組を把握するために、国が実施する普及指導員等研修の参加機会をつくり、積極的に情報収集を行う。
	○　コーディネート力を高めるための教育・教育体制を整備する必要がある。	○　成果の上がった普及指導活動をまとめ、発表し、討議する研修を継続的に実施し、コミュニケーション、プレゼンテーション、ファシリテーション、コーディネートのスキルを持った普及指導員を養成する。
	○　ケーススタディとして事例学習するとともに、産地キーマンとの交渉力、誘導力を身に着けるため、継続して研修などを開催していただきたい。	○　成果の上がった普及指導活動をまとめ、発表し、ケーススタディとして討議する研修を継続的に実施し、コミュニケーション、プレゼンテーション、ファシリテーション、コーディネートのスキルを持った普及指導員を養成し産地キーマンとの交渉力、誘導力を身に着ける。

評価項目	主　な　評　価　結　果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の体制	○　「コミュニケーション」「プレゼンテーション」「ファシリテーション」の３つのスキルを持った職員の養成が求められるので、いち早く、職員の研修・育成体制をつくることを提言する。	○　ＯＪＴとＯｆｆＪＴを組み合わせた研修を始め、普及指導員育成計画に沿った育成体制を継続する。更に、新規採用職員のＯＪＴをより効果的に進める目的で、新たに研修対象者を新任の農林水産事務所農業改良普及課職員から農林水産部新規採用職員に拡大した研修を立ち上げ、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。 ○　成果の上がった普及指導活動をまとめ、発表し、討議する研修を継続的に実施し、コミュニケーション、プレゼンテーション、ファシリテーション、コーディネートのスキルを持った普及指導員を養成する。
普及指導活動の計画（次のページに続く）	○　現場で課題となっている技術的な課題（品目毎の環境制御技術確立など）については、農業総合試験場と連携して技術開発、実証をすすめていただきたい。	○　試験研究との連携を担う広域を担当する普及指導員（農業革新支援専門員）の調整のもと、研究開発に対する企画段階からの参画など、農業総合試験場と連携して技術開発、実証を進める。
	○　新規就農者の研修受け入れ先の研修内容を把握しているのか。	○　農業次世代人材投資資金（準備型）に係る研修受け入れ先は、愛知県が研修内容を把握し、研修機関として認めていることから、研修状況を定期的に確認し、適切な研修が実施されるように取り組む。
	○　農と食についての消費者の理解を目的とした活動をもっと充実させる必要がある。 ○　現地調査で肉牛農家が述べた「生産者の顔が見える販売」、「地産地消」は、消費者にとっても一番望んでいる事である。	○　消費者の理解を得る取組が充実するよう農業者に対し意識啓発を行うとともに、地域の農業者による食育活動を支援する活動に取り組む。

評価項目	主　な　評　価　結　果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の計画	○　普及指導基本計画のなかでの課題の相互連関をもっと見易くすべきと思われる。分担した課題の成果が出ることだけに追われることなく、横のつながりから新たな展開が生まれるような工夫が必要である。	○　普及指導基本計画の中で、普及指導活動の課題の相互関係の分析結果を毎年度作成する普及指導計画で見易く整理する。
普及指導活動の実績及び成果 （次のページに続く）	○　課題によって必要なタイムスパンが異なる。長期、中期、短期の課題を柔軟に設定すべきと思われる。	○　５か年の取組を示した普及指導基本計画において、取り組む事項のタイムスパンを明記し、情勢の変化により柔軟に軌道修正できるようにする。
	○　消費者向けの広報活動をもっと充実させるべき。	○　消費者への普及事業に対する理解を促進するため、県のＷｅｂページ等を活用した情報の発信に加え、東海農政局の消費者の部屋やあいちの農林水産フェアなどで普及指導活動の成果ポスターを掲示しＰＲするなど積極的に機会を捉え広報活動を実施する。
	○　トマトの収穫の無い、１月～５月は、他の作目での収入を考えられると良いと思う。 ○　新城地区の新規就農者に対しては、十分な指導が必要である。	○　地域農業の実情を踏まえた将来方向と解決策を農業者に提案する。
	○　関係機関、農業者等からの評価はどうか。	○　農林水産事務所農業改良普及課主催で実施する農業改良普及推進会議において、関係機関や農業者等からの普及指導活動に対する評価と要請を受け、その結果を普及指導計画に反映し取り組む。
	○　規模拡大を目指すには、労働力不足がネックになり、踏み込めない状況にある。ロケーション的なマイナス要因を補う何かしらの魅力（付加価値）づくりと仕組みづくりが必要である。	○　関係機関と連携し、労働希望者が集まるように地域の条件の整備を進める。 ○　また、農業現場における労働力不足においては、国家戦略特区として本県が進める農業支援外国人受入事業のＰＲを実施する。

評価項目	主　な　評　価　結　果	普及指導計画（活動）への反映状況等
普及指導活動の実績及び成果	○　ある地域のある課題についての成果は明らかにされているが、普及指導活動は成果に至るプロセスが重要である。普及指導活動のターゲットをどのように絞り、どのような環境をつくり、どのようにアプローチしたかが重要で、普及指導活動のノウハウを整理していく必要がある。そのためには、試行錯誤の足どりをもっと出してもよいといえる。	○　各農林水産事務所農業改良普及課において、普及指導活動の活動経過、活動に対する対象の反応、目標の達成度など、普及指導活動の成果に至る試行錯誤の足どりを整理する。 ○　また、事例発表の際に普及指導活動の試行錯誤の状況を共有する。
	○　取り組んだ事業が該当する農業経営全体のなかでどのような意味があるのかを評価する部分（経営評価）をもっと出すべきといえる。	○　普及指導活動の経営評価が明確となるように整理する。
	○　成果を一地域だけの成果とすることなく、愛知県全域に応用活用して広げていく活動を、今まで以上に組織的に強力に進めていくことが重要ではないかと思う。	○　普及指導活動の成果については、外部評価会議や普及指導員研修を通じて各普及指導員に周知するとともに、部門毎に配置されている広域を担当する普及指導員（農業革新支援専門員）を通じて成果の共有に一層努める。
その他	○　もっと多くの普及指導員が情報交流できるような設定が必要と思われる。	○　平成３０年度には７０周年を迎える普及事業の関連行事及び、普及指導員が集まる機会を捉え、普及指導員が情報交流できる機会を設定する。
	○　農林水産事務所農業改良普及職員の意欲は、すごく感じられるが、今以上の取組を期待する。	○　普及指導員が現場で活躍できるように取り組む。 ○　研修等の内容を工夫して、普及指導員のモチベーションを高める。